

議事要旨(2) 金融商品専門委員会における検討状況（金融負債）について

冒頭、加藤副委員長（専門委員長）から、本年2月に公表された「金融商品会計基準（金融負債の分類及び測定）の見直しに関する検討状況の整理」（以下「検討状況の整理」という。）に対するコメントへの対応案について、専門委員会における検討状況の概要の説明がなされた後、関口専門研究員より、審議事項(2)-2に基づき、対応案について具体的な説明がなされた。

説明の後、委員等からの主な発言及び事務局からの説明は以下のようなものであった。

- あるオブザーバーから、公正価値オプションの適用及びリサイクリングの論点に関する事務局のコメント対応案について、プロジェクト横断的に検討を進める旨の方針が示されているが、具体的にどのようなものを想定しているかとの質問があった。これに対して、事務局からは、次のような回答がなされた。
 - ✓ 公正価値オプションについては、金融資産にも同様の論点があるため、金融資産と金融負債について同時に検討していきたい。
 - ✓ リサイクリングについては、必ずしも金融商品に限られた論点ではなく、退職給付会計など他の会計基準にも関連するほか、検討状況の整理にも概念レベルでの整理を求める旨のコメントが寄せられている。このため、本件については、プロジェクト横断的に検討していきたい。
- ある委員から、金融負債の分類及び測定の検討にあたっては、リサイクリングに係るプロジェクト横断的な論点のほか、複合商品の区分処理などテクニカルな論点もあるため、幅広に検討を進めていくべきとの意見があった。これに対し事務局からは、ご指摘を踏まえ、総合的な観点からこれらに関する検討を進めていきたいとの旨の回答がなされた。
- ある委員から、払込資本を増加させる可能性のある契約を検討の対象に含めるか否かという箇所の事務局のコメント対応案について、転換社債型新株予約権付社債の会計処理は米国でも一括法を存続する方向で検討を進めているということであり、我が国でも企業の資金調達手段として浸透しているので、マーケットへの影響を十分考慮して検討すべきとの意見があった。

以 上